

## 踏切整備の見通しは 平成23年度に工事を実施

京田辺  
JR南側  
駅

小林 喜代司 議員(新栄会)



拡幅整備が実施される  
JR京田辺駅南側の踏切(信楽街道踏切)

① JR片町線の輸送力増強及び整備について。  
② JR奈良線の複線化に伴う事業として京都府では調査費が計上されて

いるが片町線の複線化の見通しは進んでいるのか。安心まちづくり室長 片町線の複線化の見通しは現在立っていない。複線化促進期同盟会を通じてJRに強く要望している。

④始発、最終電車とも京田辺駅、松井山手駅間は回送車扱いである。この回送車に乗りできるようにする交渉はJRとの程度まで進んでいるのか。安心まちづくり室長 回送車は承知しており、JRには要望は伝えている。繰り返し要望する。⑤田辺地区の信楽街道踏切(JR京田辺駅南側踏切)と興戸地区の第二和井田踏切の拡幅、整備の見通しは。建設部長 信楽街道踏切はJRと協議が終わり、両側に歩道を備えた踏切の拡幅整備を来年度に着工する。第二和井田踏切の現状は一車線の幅4.5mの踏切であり、歩道も未設置である。市内での踏切の統廃合の課題もあり難航しているが、今後も積極的に協議を進めたい。⑥平成20年8月に国土交通省は国の安全基準を

満たさない堤防の区間として本市の木津川の全て表された。特に玉水橋上流付近は早急に工事が必要な箇所とされているが工事の見通しは。建設部長 木津川堤防の補強、整備は流域内の各自自治体で構成する木津川治水会においても、必要性を強く訴えてきた。玉水橋付近の堤防の補強工事については、河川管理者である国土交通省が現在、請負業者との契約手続を進めていると聞いている。今年の中頃から工事明けの10月中旬から工事着手し、来年の春までに完成の予定で、近々に国土交通省から地元説明を行うと聞いている。

⑦ごみ出しが困難な高齢者・障がい者世帯を対象に、個別ごみ収集を実施するよう何度も提案してきた。この間、保健経済環境部長 ⑧の必要性については認識している。細部の詰めが必要なので、さらに検討を進めていきたい。⑨地域の再生資源集団回収事業や、店舗に設置されている回収箱を利用してほしい。⑩公共交通の大幅なダイヤ編成が行われた。一

## 個別ごみ収集早期実施を 細部の詰めが必要

南部 登志子 議員(政友クラブ)

①ごみ出しが困難な高齢者・障がい者世帯を対象に、個別ごみ収集を実施するよう何度も提案してきた。この間、保健経済環境部長 ⑧の必要性については認識している。細部の詰めが必要なので、さらに検討を進めていきたい。⑨地域の再生資源集団回収事業や、店舗に設置されている回収箱を利用してほしい。⑩公共交通の大幅なダイヤ編成が行われた。一

休ヶ丘に加え、普賢寺地域や飯岡地区でも、不便になったという声が聞かれる。検証委員会では、採算性を問うのではなく、住民ニーズに合った運行の検討をすべきでは。安心まちづくり室長 採算性だけではない議論をしてもらいたい。③普賢寺小学校では、年々児童数が減少している。新たな対策が必要と考えるが、教育委員会の見解は。教育部長 今後も児童数は減少していくと予想



ごみ収集作業の様子

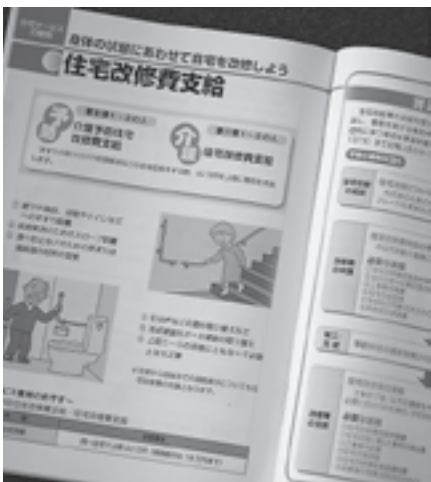
## 住宅改修 受領委任払い制度に 近隣市の事例も含め研究

櫻井 立志 議員(公明党)

①介護保険の住宅改修費の支給に、受領委任払い制度の導入をすべき。保健福祉部長 現在は償還払いにより実施しているが、本制度導入については、事務手続き等諸課題があり、先進事例を研究していきたい。②介護支援ボランティア制度導入の考えは。保健福祉部長 現在調査するなか、本人の健康

増進、介護予防等につながることは承知。種々の課題もあることから、慎重に研究したい。③住宅困窮者に民間の高齢者優良賃貸住宅を本市に誘致する考えは。建設部長 本市における高齢者民間借家世帯の比率は低く、需要も少ない。現在のところ制度導入の考えはない。④庁舎窓口業務のワンストップ化や総合案内を設置する考えは。総務部長 窓口業務のワンストップ化は施設的な制約やプライバシー問題で、現状では難しい。総合案内については将来的な検討課題と認識しているが、当面は接遇研修と市民サービスを兼ねた窓口案内を続けたい。⑤住民票や各種証明書交付を土・日や夜間にもできる体制づくりと自動発行機の導入について市

市民部長 市民の利便を図るため、予約をしていただければ土・日、夜間の発行等の市民ニーズの対応はできている。自動発行機の設置については先進地事例から、費用対効果の点において実現は困難と考える。⑥窓口に、高齢者に配慮したステーション



住宅改修費支給を案内するガイドブック

## 小中学校30人学級実施を 教室確保し実現めざす

塩貝 建夫 議員(共産党)

善計画(案)を発表した。実に30年ぶりの40人学級の見直しとなる。小学校全学年35人学級を5カ年、中学校3カ年、小学校1・2年は30人学級を2カ年(平成29・30年度)という計画である。来年度、京田辺市では4小学校(田辺、新、桃園、松井ヶ丘)の1・2年生が対象となり、空き教室がなければ実施できない。今後の取り組み方針を問う。教育長 この計画に基づき、平成30年度までの児童生徒の見込み数は、小学校で27年度には17学級、中学校で28年度に6学級の増となる。学校においては、特別活動教室の一時的な転用や、新たな施設整備が必要となり、対応していきたい。②中学校の部活動の現状と改善すべき問題点、

課題について問う。教育長 今年度は、日常の練習時間を見直し、ノ一部活デーを練習計画に取り入れた学校もあり、夏期休業中に1週間ノ一部活デーを指導してきた。今後は、外部指導者の積極的な導入なども考えた。ノ一部活デー等学校運営の見直しを図るよう指導してきた。④本年2月に発生した水道管破裂事故に係る損失額については、736万6360円を算定し、この金額について回収に努めたい。



熱心に授業を受ける児童たち(新小学校)

見極めながら、整備内容や時期、手法などについて、地元と相談し、検討していきたい。安心まちづくり室長 平成21年に啓発看板を設置したが、もう少し実態をみて、田辺警察署とも相談しながら、何らかの方策を考えたい。